

当センターの研究活動の成果を紀要にまとめた。

内容は次のとおりである。

- ① 実験・観察教材の検討と機器、材料のくふう
 - 生物電気観測のためのパルス発振機の製作
 - Ne 原子のエネルギー状態を測定するフランク・ヘルツ実験装置
 - 高校有機化学教材、アニリンの合成とその検出法
 - ダイオードを用いた整流・平滑波形観察装置、はんだごて過熱防止装置のくふう
- ② 学習指導の問題点と改善策
 - 中学校社会科における地歴並行学習の現状と研究課題
 - 中学校数学の教材研究の方法
 - クラブ活動（英語）に関する諸問題の分析とその対策

第6節 情報処理教育生徒実習

1 中型電子計算機の実習

近年、電子計算機の利用を中心とする情報技術の進展は産業経済界をはじめ、わが国社会の各分野に大きな影響を及ぼし、いわゆる情報化社会が展開されつつある。

そこで、生徒が将来、このような時代に主体的に対処していけるように、情報処理教育推進の核として教育センターが設置されたもので、その果たすべき役割は、今後ますます大きいものとなるであろう。

(1) 来所利用

共同利用施設としての教育センターを、授業の延長として利用する県立高校が年々増加の傾向にあることは喜ばしい。

なかでも、商業科、工業科などの生徒が多数利用しているが、最近、普通科の生徒も増加のきざしを示しており注目に値する。

(2) 遠隔地のため来所できない生徒のために、郵送による（メール方式）OMR利用の道を開いている

本年度の利用は、商業科延べ1,299人、工業科延べ4人、普通科延べ24人、計延べ1,327人であった。

2 NC工作機械の実習

主に工業高校の機械科系の生徒が、センターに設置されている数値制御工作機械を利用しており、本年度は、4校延べ628人が実習を行った。

今後とも各学校と有機的な連携を保ちながら、密着した指導態勢をとり、ますます実習の効率を高め、情報処理教育への関心と意欲の推進を図りたい。

県内高等学校生徒のセンター利用状況

学 科 別		利 用 数	
		学 校 数	延 べ 人 数 (人)
県 立	商 業 科	5校	623 (32%)
	工 業 科	6校	1,289 (67%)
高 校	普 通 科	1校	16 (1%)
	計	12校	1,928 (100%)
そ の 他		1校	90
合 計		13校	2,018